

# 21名の先輩から学び考える 2年生総合教養講座2016



▲講師の皆さん。前段左から、北川さん、米津恵子さん、松島夢子さん、石原理恵さん、山添和彦さん、岡明子さん、中山智絵さん。  
後段左から、橘了道さん、堀江亮司さん、小南一樹さん、鎮守あいこさん、川副亮さん、吉村朋也さん、尾木孝文さん、草野貴大さん、豊田隆久さん、今井義峰さん、上原知子さん、角佳宣さん、深尾善弘さん、定時制教諭の清水先生、進路課長の西野耕司先生。

12月10日の3・4時限目に第2学年総合教養講座が開催された。本校OB・OG21名が講師として来校され「21世紀を創造する21名の先輩たちが母校でぶっちゃけ話」と題して講演された。生徒は15人ほどの班に分かれ、講師の方々とは質疑応答を交えながら、進路について話を聞いた。



速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校  
新聞部  
彦根市金亀町4番7号

▶全体司会を務められた北川さん



今回の総合教養講座には21名の本校卒業生の方が講師として来校された。この講座を中心となつて企画された北川雄士さんや定時制教諭の清水美春先生の依頼により、本校卒業生21名による講座が実現した。北川さんは「みんな二つ返事で行きたいと言ってくれた。母校への恩返しとして、また後輩に何かを伝えたいと前向きな人たちが集まった。東京からわざわざ来てくれた人もいた」と説明され、講師が21人ということに関して「一人の講師に対する聞き手の数をなるべく少なくしたかった。一方的な『伝える』ではなく双方向的な『伝える』講演を目指し、生徒に伝わるものを感じてもらえるように講師の人数を多くした」と意図を話された。さらに生徒に対して「真つ白だと感じた。今はこれからの自分次第でスーパースターにもノートにもなれる存在。人生のキャンパスはまだ白」と印象を話された上で「だからこそ、今何かを諦めるのは早い。社会は答えを探すのではなく創る力を求めている。生き方は自分自身で創るもの」と力説された。

今回の総合教養講座には21名の本校卒業生の方が講師として来校された。この講座を中心となつて企画された北川雄士さんや定時制教諭の清水美春先生の依頼により、本校卒業生21名による講座が実現した。北川さんは「みんな二つ返事で行きたいと言ってくれた。母校への恩返しとして、また後輩に何かを伝えたいと前向きな人たちが集まった。東京からわざわざ来てくれた人もいた」と説明され、講師が21人ということに関して「一人の講師に対する聞き手の数をなるべく少なくしたかった。一方的な『伝える』ではなく双方向的な『伝える』講演を目指し、生徒に伝わるものを感じてもらえるように講師の人数を多くした」と意図を話された。さらに生徒に対して「真つ白だと感じた。今はこれからの自分次第でスーパースターにもノートにもなれる存在。人生のキャンパスはまだ白」と印象を話された上で「だからこそ、今何かを諦めるのは早い。社会は答えを探すのではなく創る力を求めている。生き方は自分自身で創るもの」と力説された。

の数をなるべく少なくしたかった。一方的な『伝える』ではなく双方向的な『伝える』講演を目指し、生徒に伝わるものを感じてもらえるように講師の人数を多くした」と意図を話された。さらに生徒に対して「真つ白だと感じた。今はこれからの自分次第でスーパースターにもノートにもなれる存在。人生のキャンパスはまだ白」と印象を話された上で「だからこそ、今何かを諦めるのは早い。社会は答えを探すのではなく創る力を求めている。生き方は自分自身で創るもの」と力説された。



◀生徒たちに向けて自身の体験を話された講師の高瀬昇太さん



▲生徒たちは興味深げに話を聞いた。